



熱と人との交差点 (1)

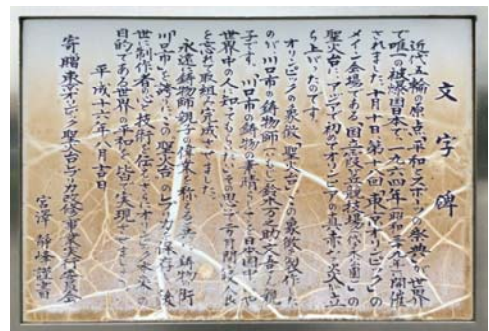
東京オリンピック聖火台 第1号

The First Cauldron of Tokyo Olympic in 1964



大宮で伝熱シンポジウムが開催された機会を利用して、筆者は東北本線大宮駅から7つ東京寄りの西川口駅で下車し、東方に徒歩10分程度の青木町公園（上記地図★地点）をたずねた。

上の写真にあるのは、本来なら旧国立競技場の中央でっぺんに鎮座していたはずの聖火台第1号だ。しかし、溶解炉で溶かした鋳鉄を鋳型に流し込む「湯入れ」という作業中に鋳型が爆発して穴があいてしまい、その座を第2号に譲った。したがって、この第1号はレプリカと表現されることもあるが、それは正確ではない。



これを作ったのは、川口市の鋳物師（いもじ）鈴木萬之助さんと三男の文吾さん。萬之助さんは爆発・失敗による心労で寝込んでしまい8日後に亡くなった。もともと納期3カ月で20万円（当時）という割の合わない条件で鈴木さん親子だけが引き受けた仕事——その時点で納期までは1カ月を切り、失敗からの立ち直りに懸命な文吾さんには、動揺期間を最小にすべく、萬之助さんの死は葬儀当日に知らされたとのことだ。そして、文吾さんはその後、兄弟や仲間の力を借りて2号となる聖火台を2週間後に完成させた。その高さ2.1メートル、重さ2.6トン。東日本大震災後、石巻に移設された第2号とともに、二つの聖火台は昭和と平成の日本をみつめている。詳細は以下のサイトを参照されたい：

<http://www.j-wave.co.jp/original/tokyounited/archives/the-hidden-story/2015/07/24-105032.html>
<http://style.nikkei.com/article/DGXMZO00225990Y6A420C1000000?channel=DF220420167271>

吉田 英生（京都大学） Hideo YOSHIDA (Kyoto University) e-mail: sakura@hideoyoshida.com